

「全鍍連」 2022年 2月号 若者から一言

新潟県鍍金工業組合

青年部 会長 横山 慎 (有)横山メッキ工場 代表取締役社長)

「転禍為福」



昨年4月より新潟県鍍金工業組合青年部の会長を仰せつかりました、横山と申します。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。このコロナ禍の中、青年部会長に就任させていただいたわけですが、2年2期の計4年間の任期を精力的に活動していきたいと思っています。弊青年部所属企業が同じ地域の同業者として一体になって地域を盛り上げていくべく、積極的に情報交換しながら協力していくべきところはしっかりと協力し、良きライバルとして切磋琢磨していくところは競い合う、そんな関係性をより強固にしていくことを第一目標に青年部活動をしていきたいと思っております。

さて、これが掲載される頃、世間の新型コロナウイルス感染症の状況はどのようになっているのでしょうか。このコロナ禍のなか多くの大変なこともありました。オンラインによるコミュニケーションが日常になるなど、加速度的にパラダイムシフトが進行しました。物理的な距離にかかわらずネットワークを維持できることで『時間の解放』と『空間の解放』が進みました。さらに技術が進み人の機微や間といったものを包括した形でのオンラインコミュニケーションが図れるようになる時代が来るかもしれませんが、今はまだ過渡期です。オンライン上でのやり取りもあくまでも遠く離れた場所においても便利に顔を合わせ、コミュニケーションをとるものであって、決して人と人との関係や繋がりを制限するために使うものではないと考えます。自然と人、人と人との関係性の中で初めて人は人として生きていけます。オンライン等便利なものを否定するものではないですが、まだ人と人のコミュニケーションの機微を包括できるまでには至ってなく、逆行するようですがface to faceでひざを突き合わせ語れる環境や関係性をまだまだ作っていかねばいけないと感じた2年間でした。

この2年余りの新型コロナウイルス感染症対策により、このままでは2022年の出生数が60万人台へ突入してしまうと危惧されています。2020年の出生数が約84万人、毎年2,3万人ぐらい出生数が減っていますが、20万人近いこの急激な減少は少子高齢化の時計の針を一気に10年以上進めたこととなります。そのことにより国内マーケットの縮小もさらに加速度を増してしまいます。日本をとくに追い抜いた中国も、日本並みの超少子高齢化で急速に失速。これからはインドが人口世界一となり、日本を軽く追い抜いて米中と並ぶ大国になります。若者の数は国の力です。少子高齢化はもはや喫緊の課題のはずなのですが、日本の少子化対策は未だに後回しにされている感が否めません。経済大国世界第二位だったのは大昔。今の日本の平均給料はG7中下から二番目、世界では22位の低水準になってしまいました。コロナ禍対策により如実にあらわになったこれらの弊害はこのままだと今後日本の未来に対して暗い影を落とすことは確実です。我々も今だけでなく5年後、10年後を見据えて、今何をしなければいけないのか。先人が守り、連綿と受け継がれてきたこの日本をしっかりと守り、後世に繋いでいかなければならない、そんな責任世代となっていることを自覚する必要があるのだと思います。悲観や批判をしていても仕方がない。自分たちが未来も生き続けること、自分たちが次の世代に未来を残す存在であることを自覚して、禍を禍のままにしない、戦後の焼け野原から奇跡的な復興を遂げた力強い日本人の血を私たちは脈々と受け継いでいることを信じて、『禍転じて福と為す』を心に、これまで以上に積極的に各都道府県の青年部の皆様との交流を計り、ものづくりを下支えできるよう励んでいきたいと思っております。